

Y14b 天文学とプラネタリウム

平松 正顕(東大理、国立天文台)、高梨 直紘(東大天文センター)

我々は、天文学の広報普及を進める新たな場として、天文学の普及に興味ある学生とプラネタリウムが協力してともに活動できる場の模索を行っている。そのための準備として、天文学を学ぶ学生の広報活動やプラネタリウムに対する意識調査を2003年度若手の会夏の学校で、プラネタリウム側の天文学や学生との協力活動に対する意識調査を2003年度日本プラネタリウム協会総会にて、それぞれ行った。

「天文学の広報普及活動に関心がある」と答えた学生は多かったが、実際に活動している割合は低かった。またプラネタリウムとは「子供向けで天文学を伝える場ではない」と感じている学生が多くいた。一方プラネタリウム側でも、天文学の広報普及活動に強い関心を示しており、実際に観望会など近くの大学の学生などとの協力事業も行われていることがわかった。

天文学の広報活動に興味ある学生とプラネタリウムが一緒になって効率的な活動を行うためには、学生に様々な可能性を持つプラネタリウムの現状を知ってもらい、プラネタリウムに対しては一緒に活動できる学生との接点を提供する必要がある。そこで我々は、学生とプラネタリウム関係者が加入するメーリングリストを作成し、意見交換や各自の活動紹介などを行うことによって活動の素地を作っている。また、プラネタリウム見学会を企画し、学生にプラネタリウムを知ってもらうと同時に具体的な協力の場を模索している。

講演では、2つのアンケート結果と我々の活動『天文学とプラネタリウム(略称:天プラ)』を紹介する。また詳細は以下のウェブサイトもご覧いただきたい。

<http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/~takanashi/tenpla/>